

持続可能な事業運営を行っていくためには、長期的な視点を持ち、将来を見据えた計画を立てる必要があります。そのため、本ビジョンの策定に当たっては、まず、計画期間よりも少し先の将来の札幌水道の姿を思い描いてから、この10年間に取り組むべき事柄を検討しました。この章では、今回思い描いた将来の札幌水道の姿を示します。

基本方向1 水源の保全と水質管理の充実

- 関係機関との連携による水源かん養林の適切な保全や、市民との連携による水源保全の取組により、水資源の貯留や洪水の緩和などの機能が維持され、豊富で良質な水源が保たれています。
- 徹底した水質監視・管理が継続されているとともに、水質への様々なリスクに適切に対応する体制が構築され、常に水道水の安全性が確保されています。
- 水質管理に関する最新の技術・知見の蓄積により、良質な水道水が供給されています。

基本方向2 効率的な水道施設の整備・更新と管理

- 水需要の変化を考慮した施設整備が行われており、最適な規模の水道システムとなっています。
- 全ての水道施設が適切に維持・保全されることにより、延命化が図られた上で効率的に更新され、水道水の安定した供給が継続されています。
- 突発的な事故や環境の変化に起因する水量、水圧、水質などの状況の変化に対応できる運転・維持管理体制が構築されています。

基本方向3 危機管理対策の強化

- 激甚化・頻発化する様々な災害への対策が進み、強靱な水道施設が整備されています。
- 市民や関係団体、民間企業、他の水道事業体など、様々なパートナーとの連携が強化され、大規模災害時の早期復旧や応急給水のための協力体制が整い、地域の災害対応力が向上しています。

基本方向4 利用者サービスの充実

- 水道局と利用者との協力により、給水装置の適切かつ効率的な管理がなされ、蛇口まで安全な水が確実に届けられています。
- 各種手続きの利便性が向上され、様々な情報の収集・提供が可能となっており、質の高いサービスを提供しています。
- 個々の利用者に適した広報を戦略的に展開し、また、利用者ニーズを的確に把握して事業運営に反映する広聴を実施することで、水道事業に対する理解と信頼が高まっています。

基本方向5 経営の健全化・効率化

- 過度に企業債借入に依存することなく、適正な料金水準のもとで健全経営ができています。
- 水道施設の整備・管理の高度化や最適化、利用者の視点に立ったサービス提供のためのデジタル技術や新技術が積極的に導入され、効率的な事業運営が行われています。

基本方向6 人材育成と事業運営体制の強化

- 長い年月をかけて培ってきた札幌水道の技術や知識が集積・共有され、幅広い知見とスキルを持つ職員が適切に確保されています。
- さっぽろ水道サービス協会との連携が強化され、同協会が水道局のパートナーとして安全・安定給水の確保において重要な役割を果たしています。
- 道内水道事業体との連携が強化され、相互に協力できる関係が構築されています。

基本方向7 環境負荷低減の推進

- 徹底した省エネルギー対策と再生可能エネルギーの最大限の導入が図られ、脱炭素社会の実現に貢献しています。
- 資源の有効活用や省資源化を推進し、持続可能な循環型社会の形成に寄与しています。

